

令和5年 新春あいさつ

町民の皆様、あけましておめでとうございます。お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、町政運営に温かいご理解とご協力を賜りありがとうございました。心より感謝申し上げます。

昨年も新型コロナの影響を大きく受けた1年となりましたが、年後半には、行動制限の緩和に加え社会経済活動やアフターコロナに向けた動きも活発になってきました。しかしながら現在は感染拡大第8波に入っているといわれ、依然として感染に十分に注意する必要があります。

新型コロナの新規患者数の発表は、昨年9月25日までは「市町村ごと」に集計されていましたが、それ以降は「感染診断を行った医療機関の所在する市町村ごと」に集計する方法に変更されています。そのため、現在は正確に美郷町内で何人の新規患者が発生しているのかを把握することができません。

本格的な冬を迎えて体調を崩しやすく、またインフルエンザの流行も予想されています。年末年始に人の移動も大幅に増加していますので、引き続き感染予防の徹底と十分な体調管理をお願いいたします。

町では、感染不安のある方への「抗原検査キットの無料配布」や「自宅療養者・自宅待機者の支援」、また、「子育て世帯や福祉施設への物価高騰対策を含めた支援」など、様々な新型コロナ対策に引き続き取り組んでまいります。

また、度重なる豪雨災害対策といった町民の安全・安心、生命・財産を守ることに最優先で取り組んでまいります。

全国初の事例となった港地区の防災集団移転事業は、国県との連携もスムーズに進み、これまでのところ順調に進捗しています。スケジュール通り移転を完了していただけるよう引き続きしっかり取り組んでいきます。

また、江の川の治水対策には過去最大規模の国家予算をつけていただいています。これから沿川の治水対策が加速していくよう努めてまいります。

一方で、町の将来のためには、様々な問題の根本原因となっている人口減少対策にも全力で取り組んでいかなければなりません。

令和4年10月1日現在の島根県の推計人口では、1年前と比べ美郷町は3.41%減少し県内最大の人口減少率となっています。出生数と死亡数の差である「自然増減」の大幅なマイナスが主要因ですが、人の出入りの差である「社会増減」もマイナスとなっています。

美郷町では長年にわたり人口減少が進み、人口減少を背景に発生した様々な問題が深刻化しています。これまで、こうした課題への対策に取り組んできました。

高齢者向けには、公共交通を補う移動手段の確保、家にいながら診察を受けられるオンライン診療の実用化などを推進しています。

商工業の衰退に対しては、現在計画している「粕淵中心地再開発」を通して、美郷町全体の商工業活性化・賑わい創出につなげていきたいと考えています。

また、農業の衰退に関しては、ファームサポート美郷の強化に加え、農林業の魅力化を図り担い手の発掘に力を入れ、振興を図っていく予定です。

もともと、これらは人口減少に伴って発生している目の前の課題への対処であり、抜本的な解決のためには、様々な課題の根本原因である人口減少に真正面から取り組み、改善を図っていく必要があります。

直接的な人口増加施策である「移住・定住」施策はもちろん、繰り返し町を訪れる「滞在人口」、町外に住みながら美郷町に関心を持ち町の活性化に寄与する「活動人口」など、様々な種類の人口を増やし、人の流れを創り出していくことが極めて重要です。

まず、「移住・定住」施策としては、特に3つの取り組みに力を入れ、PRしていきたいと考えています。

1つ目は、「社会に出るまで続く手厚い“子育て支援”」です。これまで実施してきた保育所の通園無料や中学生までの医療費無料などに加え、大学等へ進学することもへの返還不要の「美郷町子ども未来応援金」も創設し、一層充実させています。

2つ目は、「様々なライフステージの節目で応援する“定住ポイント”」制度です。転入、就職、結婚、出産などきめ細かく支援する制度となっています。

3つ目が、4月から第一次募集を開始する予定のファミリー向け移住住宅「みさとと。サステナブルハウス」です。

いずれも他の市町にはない、美郷町独自の魅力的な移住・定住支援制度です。

詳しくは広報みさとや、先日本配りさせていただきました「年末年始に美郷町へ帰省された方向けの冊子」に掲載しています。

町民の皆さんにおかれましては、町外にお住まいのご親族やお知り合いの方にぜひご紹介ください。

また、「滞在人口」「活動人口」の拡大にも力を入れていきたいと思えます。

山くじらの取り組みには全国から視察が絶えず、またマスコミにも度々取り上げられています。昨年のNHKスペシャルで特集されたのに続き、この正月にはテレビ東京系の池上彰さんの特別番組で放映される予定です。

美郷バレー構想は、全国の専門的な知見を持った11の企業・団体・自治体との連携に発展しています。

中でも「麻布大学フィールドワークセンター」の設置は大きな可能性を秘めています。今後、自然や生き物が好きな大学生や研究者が頻繁に町を訪れてくれる見込みになっており、地域との連携を一層図ることで地域の活性化につながることを期待しています。

昨年設置したサテライトオフィス「みさと。ネスト」は、全11室が既に満室となっています。新型コロナで働き方が大きく変わって生まれているテレワークやワーケーションといった需要をしっかりと取り組むことができます。

また、「カヌーの町づくり」も大きく進んでいます。

2025年に全国高校総体（インターハイ）が初めて美郷町で開催され、2030年には島根かみあり国民スポーツ大会が予定されています。

現在、急ピッチで会場整備を進めており、今年、施設建設工事を開始し、来年には競技会場が完成する予定です。

邑智中学校、島根中央高校のカヌー部はもとより、ジュニアから日本トップレベルに至るまでカヌー競技者が集まる全国有数のカヌーの町の実現が視野に入ってきました。

地域や町民の皆さんと一緒に、「カヌーの町づくり」に取り組んでいきたい、と思います。

今年は、バリ島マス村と友好姉妹都市協定を結んで30年になります。

日本最大級のガムラン楽団「ミサト・サリ」が活発に活動され、また昨年11月には産業祭にあわせバリ島アート展が開催され多くの方々にご来場いただきました。

今後も全国のバリ島好きが集まる町を目指して取り組んでいきたいと思います。

昨年はバリ島からの技能実習生が5人来町され、地域との交流も深まっています。町内企業からの要望もあり、今後も受入れを進めていく予定です。

こうした取り組みは、バリ島の自治体と友好姉妹都市協定を結ぶ日本唯一の町として、様々な方面から大きな注目を集めています。

今年は、町民の皆さんにも参加いただいて記念イベントの開催やバリ島との往来など、一年を通して30周年を記念する様々な取り組みを実施していく予定です。

困難な時代ですが、町民皆で力を合わせ、「活気あふれる明るい町」「町外と活発な交流のある町」を作っていきましょう。

結びに、町民の皆様のこの一年のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

令和5年1月1日

美郷町長 嘉戸 隆